

海に学ぶ体験活動協議会
 ↳ 継続は力↳

真の体験活動の重要性を引き続き発信

活動普及のためにもネットワークづくりや安全な活動のための資料づくりなどもＣＮＡの目玉としてきました。第１０回目に館長を選びましたのは、指導者養成講座が行われ、活躍して

に、献身的な活動を継続されいることに敬意を表します。国民の皆様の海の環境に対する関心を高めるための体験や触れ合う機会を増やしていくことが重要です。国土交通省海防局でも、

続けて金丸謙一館山市長が、皆様、館山によろそ

「渚の駅てやま」のオーブなど海辺の拠点整備を図ると共に、『たてやま海ふろエスタ』や『ウミホタル観察会』など海とふれあうイベントも多く開催しています。是非ＣＮＡの

オウムを通じ地域で親しんでいる個性あるグループを学び、今後の取組を支援していきますとお願いいたします。金丸市長も館山市の皆様に感謝を申し上げます。

ます」とあいさつをした。

続いて荒井 和朗さん
ワールド総支配人館長兼
国際海洋生物研究所所長が
房総から発信する「川シー
ワザ」の役割として、イル
カやアザラシの保護やウ
ミツタの保全活動の例に挙
げて基調講演をした。

引き続き、房総・舞台と
して4つの活動事例報告を
行った。

1 番目「樺原八人氏(韓国
美代表取締役が、代表を
務める「くしろ食化おか
み」の会)の活動状況な
どを発表して、くしろを通
じ地域を元気にしていきた
い」と述べた。

2 番目「石井博司(鹿島市
プロモーション室を課長
が、「館山1日体験橋・渚
の駅」をやまを用いた
地域の活性化の取り組みに
ついて話して、館山は東京
から車で1時間15分ほど

ーティス代表取締役が、
「海生がしたリフティング
」を案出むくく移住促進
進につながら、両地進
めにくつもりと述べた。

終りに竹内温 NPO
法人「やま・海の鑑定
団理事長が、館山に豊か
な自然、沖ノ島を中心し
た海辺1日体験活動を紹介
し、地域自然保全取組組
みは「くしろ自然1日体験
」ではなくならず、海の魅力
と地振興が両立するよう
な取組をしようといかに
と述べた。

休養をはさみ、自然体験
活動推進協議会 CONE
代表理事である佐藤雄二
NPO 顧問が「コトエス
」をを務め、ティスカシ
ヨを行った。

佐藤「コトエス」が「
『海の文化とテーマ』に
これか10年」のテーマに沿
って出ず間に、事例報告

[illegible]

2/7 C N A C が海辺の文化とくらし
体験エコツアーを館山市で開催

当日は9時半に集合し、	学芸体験活動協議会 C 2月7日にNPO法人海 造船所の紹介もあった。
市で開催した。前日6日 CUNA第10回男子オ ラムの発表を受けて行な うのである。	三好和とCUNA代表理 事が「昨日のフォーラムで 活動内容を紹介してもらい ました。今日は実際に海辺 で文化と暮らしを体験し ていただきます」とあいさつ をした。
沖ノ鼻では竹内聖・NP 総全体の中でも「C」は特	内氏がその環境に育まれ 多様な生き物をガイドし 、参加者は海辺の体験動 楽を楽しんだ。
その後の駅たちやま を訪れ、館山市立博物館 館を見学。宮坂新館山市 博物館芸芸員が「館山市	

スで沖ノ島に移動した。中「館長は今朝のように晴れの曇り空に往來するが、緒に見る景色も素知らなく、黒潮の影響でサゴゴ多様な魚の水中生もいる環境です」と神保司CNC副代表理事を大房神自らの家所見を明をして、館山港、海辺のイベントが行われる山口市、海洋学実習船や森に入る急静り、竹

〇法人たてやま、海の鑑定理事長が「沖ノ島は、海と森のつながり、たところ、身近なところ、毎回いろんなのを発見する場所です」と述べ、漂着物や黒潮の影響で種類の多いサンゴやタカラガイの説明をした。

沖ノ島にいたる俄波を渡るとき強かった風が、島の森に入る急静り、竹

国の指定文化財の、漁業特化した展示をしています。また、万祝（まいわい）は千葉県の指定文化財で、これらの貴重な地域資源をいかして、展覧会なども行っています」と述べ、館長の展示を案内しながら鯨船の「清瀬」に就任した。その名譽館長に就任した「館山おきな大使」あなぐん」の新設ヨリ

『』
『』

「なども紹介した。」
続いて『館山夕日棧橋』の説明を田邊健雄、館山市経済観光部商工振興課長などが実施管理係係長が、「この棧橋は千葉県が整備をした。館山市では利用調整を行っています。最大の魅力である海を活用し来訪者や地元とシジェンで、『館山港港港振興プロジェクト』を作成し、クルーズ船舶の就航のためのプラン実現のためにできたのがこの棧橋と渚の駅だ」と言います。道路から先端まで500メートルあり、には丸やばしうつびいなどなど、大型客船も着岸していま

竹内たてやま

最後に渚の駅でやま内（参加者から）沖ノ島では定期的な海岸清掃を行って、いままなかの質問や、それに関連しプラスチックごみなども含め、なぜこんなものが漂着するかということがある」と爆笑半島で清掃活動を行っている経験からの発言など様々な意見が出た。また「沖ノ島の体験、漁業の歴史も学べてよかったと思います」などの感想があり、活発な意見交換が行われた。

田邊館山市市

竹内氏が「沖ノ島では主に夏の最盛期のルールとマ

ナが問題になっていて、行政と民間でそこを解するの方法を考えています。環境を配慮する意識を持った人々が集しめる仕組が作れたらいいと思っています」と述べ、さらに「将来的には館山・房総の地域の魅力を連携して集約した形の情報発信と受け入りのでる地域プラットフォーム（機

能が果たしたいですね」と提示した。

前日のフー・オムから総協会の参加者も多く、館山の豊かな自然に包まれ、総地域の特徴のある海辺、屋敷文化を、実際に見学体験し、今後のC.N.A.Cや環境連携、町個々の地域での活動の課題も考える集り多かったです。

『館山夕日接撫』（手前



エコツアーの様様【沖ノ島で竹内氏の説明を聞く参加者】

館山市立博物館分館見学の構図（渚の駅まで）

「港灣法の一部を改正する
法律案」を閣議決定 2月5日

国土交通省港灣局は、2月5日、外航クルーズ船による訪日外国人旅行者数の急増に対応するとともに、

II. 法律案の概要

(1)クルーズ旅客施設の無利子貸付対象施設への追加



古永北陸地方整備局港湾空港部長

事業継続

1/29 第2回

北陸地方整備局は1月29日平成27年度第2回「北陸地域港湾の事業継続計画検討会」を開催した。

本検討会は、北陸地域の重要港湾として策定している

①港湾管理と協力して港の体制構築

②官民連携の促進のための施設に、旅客施設等を追加

施設の建設に係る資金の無利子貸付制度の対象施設に、旅客施設等を追加



小野 座長

回北陸地域港湾の 統計画検討会開催

津の町などを通じた一法人としての指定する制度を創設。
③港湾の利用に関する情報を提供するための施設を新たに港湾施設に追加

長期にわたる使用される施設等の設置について、港湾区域内の水域等における利用の許可を申請することができるとの公募により決定する制度を創設。

冒頭吉水宙司国土交通省
北陸地区整備局港湾空港部長が「本日の検討会では、検討の前提条件となる『災害の規模や状況シナリオ』を整理いたしました。また基本的な考え方についても整理しております。ご議論いたした内容ですが、1つ目の『復旧資機材等』の支援

る事業継続統計画を実効性の高い計画にするため、広域的な課題を検討し、北陸地域の港湾が大規模災害により被災した場合に、地域内の港湾が相互に連携した対応を図る。公域事業継続統計画の策定に向けた検討を行うもの。

第29回北陸地域港灣の事業継続計画検討会開催

体制』では、現在構築されている支援体制が良いかどうか、2つ目の「緊急物資輸送体制」では、フェリー及びRORO船が運寄航ししていない緊急物資輸送岸壁へ着岸・荷役作業を行う場合の対応や、関係者間の



協力支援について、3つ目の「一般貨物の代替輸送体制」では、代替港として貨物が増加した場合の対応策として、代替港として貨物が増加した場合の対応策として、ご意見をいただきました。この機会にあ

「第2回北陸地域港湾の事業継続計画検討会」の模様

新しい制度について、被災状況の想定、ナリオを提示し、復旧資機材の支援、緊急物資輸送、一般貨物の代替輸送を、港湾が連携して行うための行動について、関係者間の連絡調整行動内容、情報、必要な資源等について議論を行った。

◎当日の主な意見

- ・（復旧資機材支援）被災港への出動をう船舶くつらひと想定した場合、冬季においても調達が可能ではないか。
- ・連絡体制は船越との協定により、会社会社まで連絡が行くようになっている。
- ・（緊急物資輸送）被災港へ臨時に寄港する場合、着岸の安全確認が重要である。
- ・RORO船は定期運航しているが、協力できる範囲で協力する。
- ・（一般貨物（コンテナ）の代替輸送）被災港からの代替輸送の仕組を、増えれば、まずヤード・バンクすることになり、貨物流も考えられたい。
- ・荷主が代替すれば代たへの変更は困難で、終わりに小野座長が、た。のように総括して終
- ・緊急物資輸送でフェ等を用いる場合はの安全をナリアするがある。
- ・一般貨物を代替輸送上で、関係者間で協する体制が必要と思
- ・マネジメント計画で訓練が必要もない。
- ・連絡体制して、セー機能、指令塔の役を持つたよう検討方がよい。
- ・個別港湾BCPで、一部のうについて、行画として具体的に

港
り
必要
する
力す
られ
こし
しれ
ンタ
割
した
きな
動
が

港
はな
喜港
る。

のり
どが
問わ
のた
とい
こと
ある

◎座長 小野京都大学防災
関係者
委員
有識者
船社、港湾
事業者、港湾管理者、災害

国総研が台風23号により根室 高潮・高波に関する被災調査報

12月8日に国土交通省国
土技術政策総合研究所（国
総研）と、国立研究開発法
人港湾空港技術研究所（港
空研）、北海道開発局（北
開研）、国立研究開発法人
寒地土木研究所寒地土木研
は、以下の共同現地調査報
告結果を国総研Pに発表
した。

平成27年10月8日～9日



浅井沿岸防災研究室長

・調査結果概要：根室港周
海道根室市

◎調査概要
・調査地：根室港・海岸町
弥生町、本町周辺）及
西浜地区、穂香地区（企
海道根室市）

国総研が台風23号により根室港付近発生の
高潮・高波に関する被災調査報告発表 12／8

港付近発生の
 12／8
 津波による浸水被害が得られた地区において、浸水範囲、浸水深等を調査し、今回の高潮の特性および被害状況を把握した。高潮の原因となった台風23号は10月8日3時に温帯低気圧に変化した後も、同日15時まで中心気圧は低下し続け、最大風速および観測潮位も同日の12時から13時にかけて最高値を記録した。調査地点のうち、平成26年12月の高潮時に市街地が浸水した弥生町周辺では（写真）、今回の高潮による

当該地区では、昨年の被災を受けて高潮時に暫定的な対策を実施しており、そ

21であり、海側から市街地への浸水は確認されなかった。



浸水範囲

浸水被害現地調査の模様【根室市街地弥生町】

・津正国総研泊岸海洋・防災研究部泊岸防災研究室 内藤一司総研員
◎調査団員

の妨げになる高潮に注意され、水深の低減の可能性がアンケートの結果より示された。

・津波研究領域海洋情報研究チーム研究員 田村仁彦空研海洋情報・土木建設研究所研究員 藤木峻彦空研海洋情報・津波研究領域海洋情報研究チーム研究員 井和泰地土研寒地水環境研究グループ寒冷沿岸チーム研究員 鈴木一行開局釧路開発建設部長開局釧路事務所長（10/14）み、菅原健一北開局釧路開発建設部根室港灣事務所第一工務課長、山本剛北開局釧路開発建設部根室港灣事務所第二工務課事業専門官

【訂正】紙幣2月2日「一面トランプ記事」重要港湾の管理者と幹線課長会議の10段目校正ミスがありました。西村拓計課課長飲了した。堀田修計課課長兼官の氏名は治の間違ひです。お詫言して訂正します。

『箱田マロ様』(子爵)

から重む『泪の歌たてやま』 館田市立博物館蔵 館元子の模倣（泪の歌たてやま）